第一号が発行されてから二十年。親しみやすさをめざし編集されてきた広報紙

「広報紙は市の顔。ますます充実させてください」

「広報しろね」を診断するのは市民のみなさんです。発行した広報紙が、市民のみなさんからどのように受けとめられているのか――発行ごとに寄せられるみなさんの反応が、係にとっては最大の励みです。2～3ページでは、これからの広報紙の課題はということで市民の活発な意見が伺えました。4、5ページでは、広報に対する街の声をひろってみました。

街の声…

白根の歴史や記録などローカル色を出して

毎月の広報が届くのを楽しみにしています。だいぶ前から綴って保存しておき、何かあるとひっぱり出して見ていますよ。とてもためになりますからね。

大きな版になったせいもあるでしょうが、以前よりだいぶ読みやすくなりました。もっと見やすく、読みやすくするために、あまりむずかしい言葉を使わずに、話しことばで書くのも良いと思います。それに、お金がかかると思いますが、カラー印刷にできないものかと思います。

市の総合計画や基本計画の内容、各年度ごとに行う事業を詳しく載せるのもいいと思います。市民の人で知らない人も多いと思いますから。

白根の歴史や記録などをどしどし載せて、もっとローカル色を出してほしいと思います。市民のいろいろな声を聞くために、投書コーナーを設けてください。また、白根の民話とか、風刺的なイラストやマンガなどを募集するのもおもしろいと思います。

大井義雄さん
(一の町・商店主・57歳)

消費者コーナー・地域紹介コーナーを設けて

家族みんなで読んでいます。広報で、市の実情などがわかりますから。でも、予算とか行政からのお知らせ記事ばかりだと堅くなると思うので、なごやかなものも載せてください。

たとえば、結婚した人や、生まれた赤ちゃんの名前を紹介するコーナーを、また、一ページを使って、地域のことを紹介する「○○地区コーナー」も設けてほしいですね。今回は新飯田地区、次回は茨曽根地区というふうに、毎回地域のできごとや珍しいもの、歴史的なものを紹介するのです。白根市は広くて、他の地区のことまでわからない人も多いと思いますから。

消費者コーナーを設けて、消費者からの質問と、その回答を載せたらどうでしょうか。私たち主婦は、関心を持って読みますよ。

以前に掲載していた「目で見る白根今昔」はよかったですね。今と昔の写真を載せていて、とても懐かしく見ていました。また連載してほしいですね。

大野ヒサエさん
(上中村・主婦・52歳)

情報の先取りと努力の積み重ねを

広報紙は、市役所の宣伝カーのようなもの。とかく行政側から一方通行になりやすい面がありますが、行政と市民のパイプ役としての広報の役割は、相互通行でなければなりません。

広く市民の声を吸い上げていくには、どうあったらよいかが大きな問題点ではないでしょうか。市民に接して「何をしてほしいか」「今、何を聞きたいか」など、情報を集めそれを先取りして知らせていくことが、広報に与えられた使命だと考えられますね。これらの努力の積み重ねによって市民から読まれ、親しまれ、愛される広報紙になると思います。

紙上の工夫を図ることも大切です。たとえば、「こんにちはコーナー」を設け、日常茶飯事に点在するユーモラスな話題や、写真などを掲載する。また、市に伝わる昔話や生活マンガなどのコーナーを設けるのも一つです。

「これが広報しろねだ」という道に、いっそう進んでほしいですね。

万羽昭四さん
(大郷小校長・51歳)

街の声…

地域の話題をどんどん取り上げて

広報は、いかに読みやすく、正確に伝えるか、また理解してもらえるかが一番大事だと思います。以前と比べると、だいぶ読みやすくなっていると思います。

行政的なものばかりを書いていくと、どうしても堅くなり、市民から読んでもらえないと思います。いくら良いことを書いても、読まれなければなんにもなりませんからね。行政色のない記事も必要でしょう。

地域のこととか、知人が出ていると、よく読みますね。それで、地域の話題などを、どんどん取り上げたらいいと思います。また、単発的な記事だけでなく、連載ものを設けたらどうでしょう。連載ものを読むことによって、他の記事も読むと思うので…。

市内の地名を紹介するコーナーを設けるのもいいと思います。どうしてその地名がついたのか、また、そのいわれなどを紹介していくのです。

家族みんなが読んでも、楽しく読める広報紙をめざしてください。

田村義三郎さん
(沖新保・団体職員・39歳)

市の抱えている問題を提起しみんなで考える広報を

毎月二回、広報が届くのを楽しみにしている一人です。最近は紙面が大きくなり、話題も盛りだくさんになったように感じられます。

先回、ボランティア活動のことが掲載されていましたが、若い人たちも中心になってがんばっているように深い感銘を受けました。一つの記事が紙面に載ることにより、共鳴する人の輪ができ人が動く、一人では安易にできないことでも、力を合わせて取り組んでいるさまに、とても心強さを感じます。また、参加させうる力を、この広報しろねは持っているのではないでしょうか。

三百号を迎え、これからもお知らせ的な記事だけにとどまらず、深く掘りさげた内容を期待します。また、市の抱えている問題を提起して、それによる投書を募り、特集を組んでみても良いと思います。いずれにしても、さまざまな人たちの考え方、生き方、活躍が知りたいですね。

広報しろねを市の顔として、ますます充実させてください。

泉田紀代恵さん
(四ツ興野・主婦・28歳)

市議会や農業関係の記事を詳しく載せて

広報紙が届くと、ひととおり目を通します。地元に関係したことが載っていると、興味を持ってよく読みますね。

健康ガイドは、婦人たちがよく見ているようです。私の家でも、小さい子供がいるので切り取って貼っておきます。その部分を、二色刷りにしてもよいのではと思います。

市議会のようすは、我々にはあまりよくわかりません。議会は、市のこれからの方向を決める大事なものですから、審議された件や一般質問の内容などを、詳しく広報で取り上げてください。また、白根市の基幹産業は農業。その農業関係の記事が少ないですね。一般の人から厳しい農業の現実を知ってもらうためにも、ある程度のスペースをとって連載してもいいと思います。

私も学生時代に、文集を作ったことがあるので、広報担当者の苦労はわかります。大変でしょうが、これからも読まれる広報紙作りにがんばってください。

田村　勤さん
(下木山・農業・31歳)

若者が魅力を持つ編集・紙面に

広報が届くのが、ちょっと遅い感じです。友だちが「広報見たよ」っていってから、だいぶたって家に届くんです。だから、催し物や募集記事とかは、その期間が終わってから届くこともときどきあります。もう少し早く届けてもらうようにしてください。

以前と比べると、広報は変わってきているなあって感じますね。行政からのお知らせ記事は、少し堅い感じがしますが、最後のページはやわらかく、タウン誌みたいでとても好きです。

前に、ひとこまマンガやふるさとの民話が載っていましたが、また掲載してください。読者の欄を設けて、いろんな声を募集していくのもいいと思います。また、ときどき特集を組んだらどうでしょう。たとえば凧合戦だったら、その歴史とか、それにまつわる話などを、ある程度のページ数をさいて載せていくのです。

若い人が見ても、楽しく興味を持って読める広報にしてください。

須田愛子さん
(蔵主・事務員・23歳)

こま切れ記事だけでなくじっくり取り組むものも

広報しろねは、主婦向けに編集しているようですが、うちのおふくろは、あまり読まないですよ。広報は私とおやじが読みます。目を通す程度なんですけどね。

市役所から出る文書などは、堅苦しく読みづらい感じがします。広報紙も少し堅いようですね。若者はあまり読んでいないようですね。やはり、我々若者に関する記事が少ないからだと思います。それに、市民登場の中でも、若い人の声はほとんど出ていない気がするし……。

今、青年学級と講座に入っていますが、そういうものを特集し、紙面の中に若者たちの声を取り上げてほしいと思います。市民文芸の欄にも若者の作品を出してほしいですね。また、市内の施設や名所、旧跡などを紹介するコーナーもあったらいいと思います。

今の広報は、こま切れ的な記事が多いように感じられます。もっとじっくり取り組んだものも書いたらよいと思っています。

藤田和弘さん
(下八枚・農業・22歳)